

Do!

間近だから、響きあう



サロンコンサート

演奏家の指の動き、息遣いまでつぶさに伝わるような空間で、数十人がともに音楽を聴き、楽しむ。そんなサロンコンサートの、京都や大阪でも趣向を凝らして開かれている。舞台は、演奏家の自宅やマンションの一室。奏者にも聴き手にも新たな発見があり、静かな人気につながっているようだ。現場を訪ね、耳を澄ませてみた。

(尾崎千裕)

自宅開放

京都市北区、大徳寺近くの住宅街にある和風家屋が9日、コンサート会場になった。スイセンなど季節の花が彩る階段で2階へ。40席はすでにお客さんで埋まっていた。

演奏は、この家のあるじ、河野文昭(チェロ)、美砂子(ピ

アノ)夫妻。普段は練習室として使う空間を「アトリエ・ワム」と名付け、昨秋からコンサートを始めた。この日の曲目は、ベートーベンのソナタ、チャイコエフ「チェロとピアノのためのおとぎ話」など。文昭さんが弾くチェロとの距離が想像以上に近く、驚いた。わずかな指の動きも見える。

合間に文昭さんが、自身が使うチェロの来歴や入手までの経緯などをユーモラスに語る。お客さんから質問も飛び出す。緊張がほぐれ、会場は和やかな雰囲気包まれた。チェロを習う中学生の息子らと訪れた京都市の男性は「真正面で、息遣いまで伝わってきた。ホールとはまた違ってすごい」。



トークを交えての演奏に、和やかな空気が広がった＝京都市北区のアトリエ・ワム

今後の演奏日程

●アトリエ・ワム 次回は5月7、8日。バッハ「無伴奏チェロ組曲第3番」、ベートーベン「ピアノとチェロのためのソナタ第3番」など。3500円、学生2千円。問い合わせは、コンサート・モーツァルト(075・432・0117)。

●ノワ・アコルデ音楽アートサロン 次回は2月4日午後7時、リコーダー江崎浩司とピアノ長久真実子のデュオ。チェンバロのお披露目も。前売り3千円、高校生以下1500円。4月30日には横山幸雄のピアノリサイタル。午後2時、5時。前売り各5500円、通し券1万円。同事務所(06・6862・8855)。

視線・息遣いまで◇リクエスト気軽

河野さん夫妻は、ともにホールで演奏会を開き、音大でも教える実力派だ。しかし、ホールで演奏会を開くとすると、費用や集客も考えなくてはならない。「自宅なら、そのエネルギーを音楽に振り向けることができる」と美砂子さん。9月の初回コンサートのアングレトには「間近で驚いた」「インパクトがあった」といった意見が寄せられ、半分近くが第2回を予約する人気だった。

2カ所のみトイレの案内、雨が降れば傘の置き場所、自宅ならではの苦労もある。毎回、スタッフ1人と京都市の文化ボランティア2人に手伝ってもらうが、すべての段取りは自分たちでしなければならぬ。

それでも、「お客さんの視線や呼吸がわかるので、反応しあって演奏ができる。ここでしかできない演奏会をしたい」と河野さん夫妻。他の演奏家を招くことや、マネアックな企画への挑戦も考えている。

つながる

日本を代表するバロックバイ

オリン奏者の寺神戸亮さんが、テレマンの「無伴奏バイオリンのためのファンタジア第12番」を弾き終えると、50人余りから大きな拍手が送られた。昨年11月、大阪府豊中市のマンション1階にある「ノワ・アコルデ音楽アートサロン」。寺神戸さんが「アンコールに何か聴きたいものはありますか」と声をかけると、客席からすぐさま「7番」とリクエスト。ホールではほとんど目にしない光景だ。終演後、寺神戸さんの公開レッスンもあった。

「バロック音楽は大きい音で圧倒するのではなく、語りかける音楽。ホールよりお客さんが間近にいるサロンの方が本質に近い」と寺神戸さんは話す。

同サロンは寺のマンションを経営する平井悦子さんが5年前に開いた。夫がプロのクラリネット奏者で、もとよみマンションの各部屋には音大生向けに防音を施していた。「ここで五重奏ができたらいいな」と話していた夫が亡くなり、平井さんも一時体調を崩した。しかし、再び演奏会に出かける中で、若い演奏家を育てる手助けができた。この思いが生えたという。

主催公演にはできる限り公開レッスンを組みあわせたり、お茶付きの懇談会を開いたり工夫を凝らす。音楽仲間の口コミやチラシなどで情報が広がり、今では毎回ほぼ満席。平井さんは「コンサートを通して、音楽家やお客さん同士につながりが増えるのが、サロンの醍醐味だ」。